

防音ドアユニット【T 2】(三方枠) 片開ドア

このたびは、A B E K O G Y O 製品をご利用いただき、誠にありがとうございます。

⚠ 施工にあたってのご注意

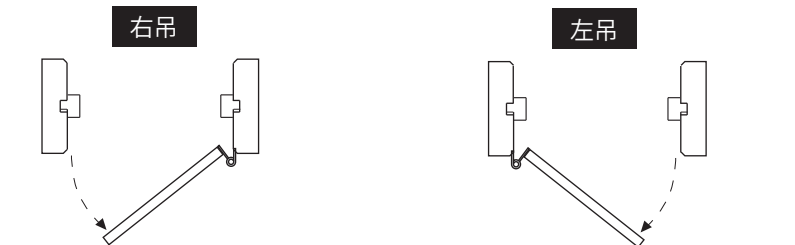
- この施工説明書をよくお読みになり、正しく取付けてください。誤った取付けをしますと、人身事故や家財の損害が発生する恐れがあります。
- 商品に破損や異常がないか、付属品の不足はないかをご確認ください。万一商品に破損や異常があった場合、また付属品の不備があった場合は、販売店または阿部興業株式会社までご連絡ください。
- 照明灯などの熱により、表面化粧が冒される場合があるので、熱源は 1 m 以上離して作業してください。

※特注品は施工方法が異なる場合があります。詳しくは担当者までお問い合わせください。

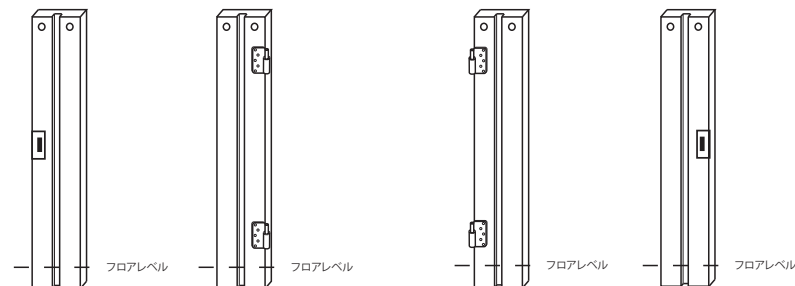
取付け順

1. 枠の組立て

①製品の勝手の開き方を下の図を参考に確認してください。



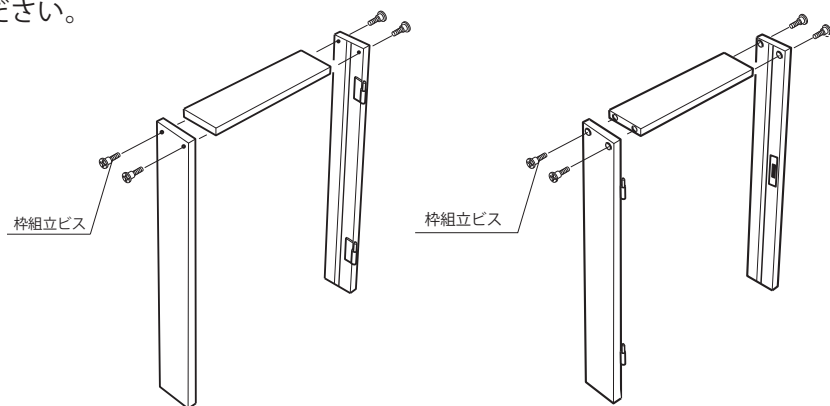
②必要に応じて下端をカットしてください。



③縦枠と上枠を、組立ビスで締め付けてください。

注意

納まりを確認ください。枠足12mm (FLより下に縦枠が12mm飲み込む) の設定になっています。納まりによって、現場切断などで調整が必要になる場合があります。



2. 枠の取付け

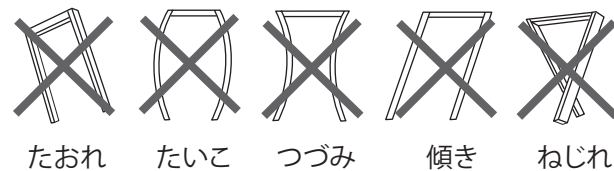
①開口部の水平・垂直を確認してください。

②躯体取付ビスを使って、枠を取り付けてください。

※付属のビスは木ビスです。躯体が木でない場合は、別途ビスをご用意ください。

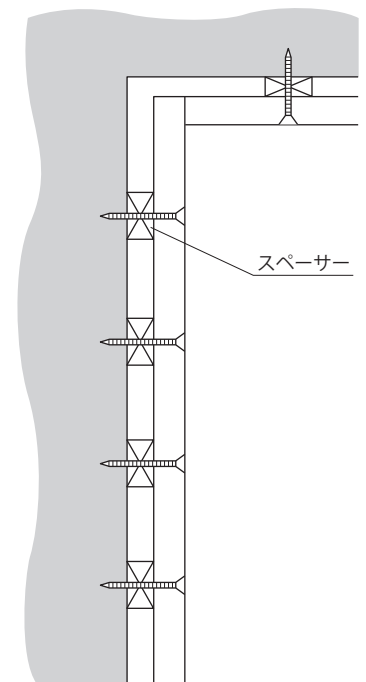
※ドア枠と開口部に隙間があると、音が漏れ、遮音性能が著しく低下します。隙間がある場合は、遮音充填材や、防音コーキング材 (いずれも市販品) で塞いでください。

※施工後の枠が下図にならないように水平・垂直および開口寸法の確認をしてください。



注意

戸当りの取付けは扉の吊込み時に行ってください。



※躯体が木でない場合は、別途ビスをご用意ください。

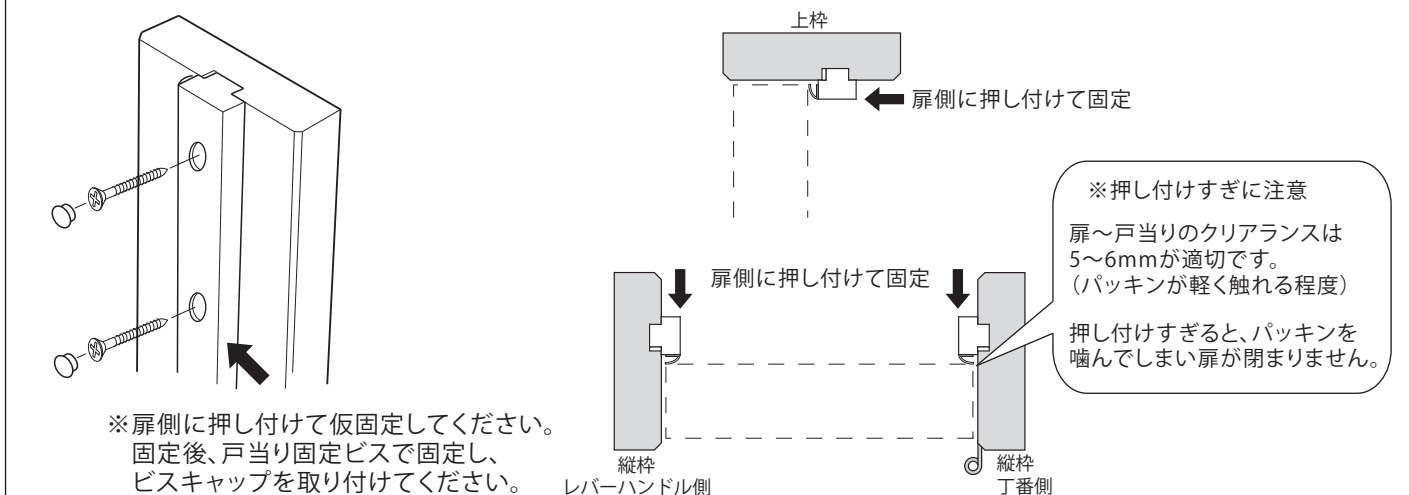
3. 戸当りの取付け

①扉を仮吊りし、戸当りに扉が密着するか確認してください。

②初めに、縦戸当りを取り付けてください。

③縦用の長さは、現場合合わせのうえカットしたのち、取り付けてください。

※戸当りと扉が密着していないと、音が漏れ、遮音性能が著しく低下します。戸当りは、扉側に押し付けて扉に密着させて固定してください。

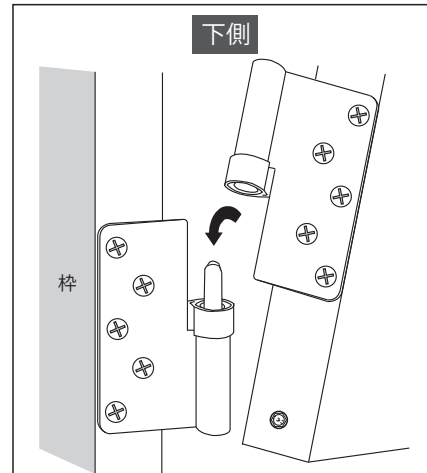


4. 扉の吊込み

●扉側丁番を枠側丁番の軸芯に差し込み、扉を取り付けてください。

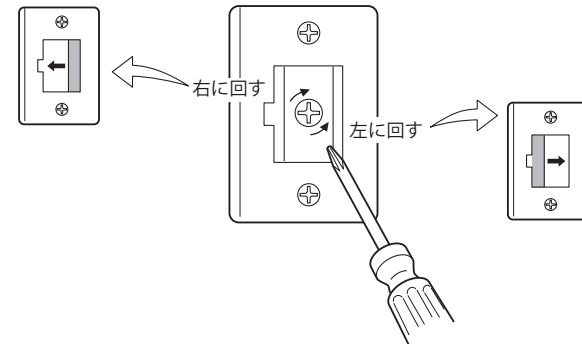
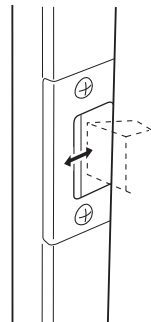
注意

- ①一度扉を吊り込み、扉がスムーズに開閉できるかを確認してください。
- ②扉の保護のため、扉を一度取りはずし建築工事完了後に再度吊込むことをお勧めします。

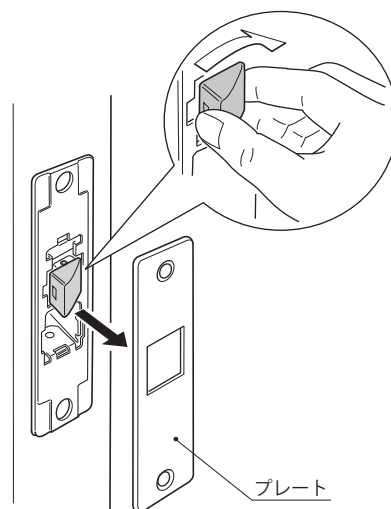


5. 建付け調整

●ストライク ラッチがストライクの中でガタついたり、ストライクにかからないときは、ストライクの調整を行ってください。±2.5mmの調整が可能です。



●ラッチの向き 左吊の場合にはプレートをはずして、ラッチの向きを反対にしてください。(標準は右吊用になっています。)



6. ボトムシールの調整

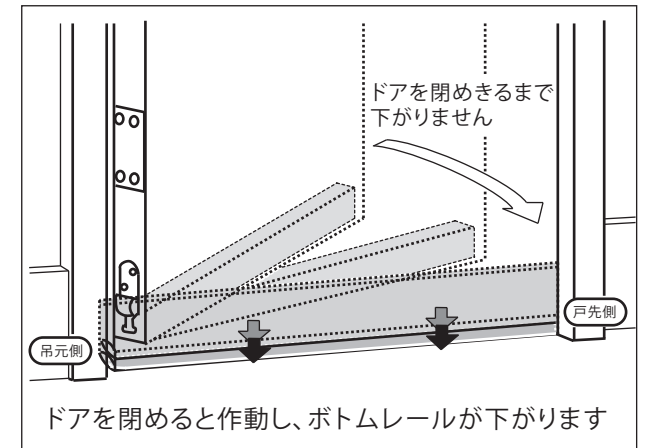
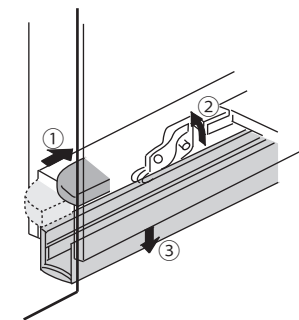
扉を閉めた際、扉下端に付属しているボトムシールが正常に作動しているかご確認ください。

注意

- ①ボトムシールは床に密着することで性能を発揮する部品です。
- ②床面が平滑かつ水平であることを確認してください。

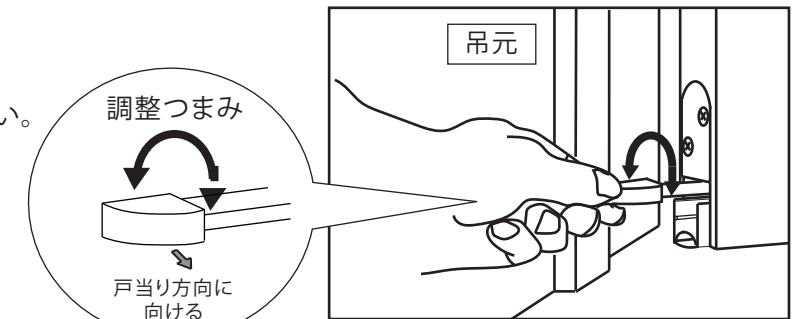
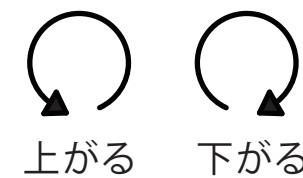
- ボトムレールが垂直に降りて、2点で床を押さえます。
- 縦枠との隙間を詰めやすいように、ボトムレール自体が±3mm、左右に自在に動きます。

吊元側のラッチが10mm押し込まれると起動し、ダンパーを効かせながらボトムレールがゆっくり下がる構造です。



調整方法

吊元側下部の調整つまみを回して調整してください。



注意

- ゴムが床に強く当たりすぎる状態で繰り返しドア開閉を続けると
- 扉の開閉時にもゴムが床を摺る
- ゴムが外れる
- などの不具合が生じますのでご注意ください。

7. 施工終了後の確認

施工が完了しましたら、下記の点について確認してください。

- ◆全ての部品が取り付けられているか、また間違った取付けがされていないか確認してください。
- ◆取付けネジが所定の位置に取り付けられているか確認してください。
- ◆ネジのゆるみや枠のガタつきがないか確認してください。
- ◆扉の開閉がスムーズに行えるか、施工上の不具合がないか再度確認してください。

<お手入れ方法>

- お手入れは、柔らかい布を、水でうすめた中性洗剤に浸し、よく絞ってから汚れを落とし、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。
- シンナーなどの溶剤や強い洗剤を使用しないでください。
- ペンキ・グリース・油・パテなどが付着した場合は、速やかに拭き取ってください。

<使用上のご注意>

- 扉の近くでストーブなどのご使用はお避けください。(扉が反ったり、表面がゆがんだりする原因になります。)
- 扉や枠の清掃には、シンナーなどの薬品を使わないでください。